

<2020年度修学旅行研究会開催報告>

日時:2020年11月18日(水)

場所:名古屋都市センター会議室

発表校:名古屋市立宮中学校

テーマ:危機意識を高める修学旅行ー防災を意識してー

【修学旅行のねらい】

- ① 和歌山県由良町での活動を通して、地域の特色である文化や風土を学ぶ。
- ② 仲間と協力して行動し、友情を深める。
- ③ 震災被害地などを見学し、地震などの防災意識を高める。

この行動目標を元に、修学旅行のスローガンを募集し、以下のスローガンを決定した。

カンサイで みんなの絆 カンセイへ

【事前学習】

(1) 防災意識を高めるために

- ① 見学地である「稲むら火の館～濱口梧陵記念館・津波防災教育センター～」についての調べ学習
- ② 宮中学校区の浸水についてのハザードマップを作成

(2) 訪問先の調べ学習

実行委員が中心となり、和歌山県由良町について調べ、手作りのパンフレットを作成

【修学旅行の日程】

1日目 学校発(バス)・・・白崎海洋公園(入村式・昼食)・・・クルージング・・・干物づくり・・・各
民宿(夕食・交流会)

2日目 退村式・・・稲村火の館見学・・・マリーナシティ(昼食)・・・学校着(バス)

【当日の活動】

1日目

サバの開きづくり体験・・・由良町の方の説明を受けて、サバを一人二匹ずつさばいた。

クルージング体験・・・漁船に実際に乗り、沖に出て、船長さんのガイドンスを聞きながら 20～30
分のクルージングを楽しんだ。

2日目

稲むら火の館見学・・・人命尊重の精神をふまえ、来たるべき津波災害から大切な生命や暮らし
を守ることを学んだ。

【事後の活動】

事前学習で調べたこと、施設見学や体験を通して分かったことを各自が作成する「修学旅行新聞」としてまとめた。完成した「修学旅行新聞」を掲示し、見学する時間を設けた。「修学旅行新聞」は、主に稲むら火の館に関する内容のものもあり、防災に対する危機意識の高まりが見られた。

【成果と課題】

- 常に感染症対策を意識しながら行動したり、稲むら火の館でも熱心に防災関係のビデオを視聴したり、メモをとったりするなど危機意識を高めることができた。
- コロナ渦の中、修学旅行の計画や楽しい思い出になるよう様々な計画を立案したことに対して、3年職員、同じ学年の仲間である修学旅行実行委員、そして温かく迎え入れてくださった由良町のみなさんなどに対して感謝の気持ちをもつことができた。
- ▼ 今年度は事前学習が思うようにできなかったため、防災に対する意識は高まったが、深めるまでには至らなかった。

2021年度は、美浜町立河和中学校の事例発表を予定している。

教務主任 牛島 康太郎

危機意識を高める修学旅行 ～防災を意識して～

●学校紹介

本校のある名古屋市熱田区は、名古屋市の中心部からやや南部に位置し、熱田神宮の鳥居前町、近世からは東海道五十三次の宮宿の宿場町として栄えた場所である。歴史的・文化的に重要なエリアである。学区には、熱田神宮、宮宿、白鳥古墳、源頼朝の生誕地とされる誓願寺、太平洋戦争中の熱田空襲跡など、史跡が多い。

本校は昭和二二(一九四七)年四月に開校し、73年目を迎えた。学区に2つの小学校、特別支援学校がある。校内には、詩人若山牧水が書き残した筆跡を元に彫られた若山牧水の歌碑や松尾芭蕉の墓塚が残されていることから、短歌に親しもうと毎年「牧水忌短歌会」を行っている。



校舎外観

School Data

【創立年】昭和22(1947)年
 【教育目標】「自ら進んで学び 困窮しさとたくましさをもつ生徒」の育成を目指す
 ○常に向上心を持ち、粘り強く学び続ける生徒
 ○思いやりの心を持ち、認め合い、支え合う生徒
 ○健やかな体と強い精神力を持ち、たくましく生きる生徒
 【所在地】愛知県名古屋市熱田区白鳥1-3-46
 【全校生徒数】296名(11学級、内特別支援学級2学級)
 【教職員数】32名

はじめに

本校は毎年、東京を中心とした関東方面に出かけている。しかし、2020年に東京オリンピックが開催されることから、ホテル代の高騰、人混みの多さなど様々な問題が浮かび上がったことにより、大阪・神戸方面に変更をした。

本年は東海豪雨から20年、阪神淡路大震災から25年、来年は東日本大震災から10年の節目の年である。また、近年は東日本大震災をはじめ未曾有の災害、ゲリラ豪雨や台風による土砂災害など被害の大きさは私たちの予想を大きく上回る。

そこで、関西方面の防災教育施設を見学や学習することで、防災に対する意識を高めていく。

修学旅行のねらい

- 本校の努力点である「自ら進んで学び 困窮しさとたくましさをもつ生徒」と、3年生の学年目標である「努力を惜しまず、誘惑に負けず、拓け未来を」を踏まえて、次のようにねらいを設定した。
- ①和歌山県由良町での活動を通して、地域の特色である文化や風土を学ぶ。
 - ②仲間と協力して行動し、友情を深める。
 - ③震災被害地などを見学し、地震などの防災意識を高める。
- このねらいをもとに、修学旅行のスローガ

●重点を置いた活動

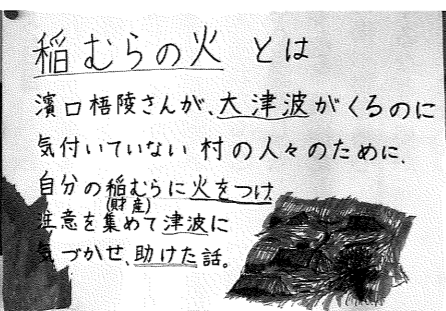
自然の美しさと恐ろしさを学ぶ活動

防災意識を高める事前学習として、修学旅行の見学地である「稲むら火の館」濱口梧陵記念館・津波防災教育センター」について調べ学習を行った。実行委員を募り、実行委員が授業後、「稲むら火の館」とは何をテーマとした建物か、「稲むらの火とは」等についてまとめたものを作成したり、宮中学校区の浸水についてハザードマップを作成したりした。生徒たちは、廊下に掲示されたものを熱心に読み、稲むら火の館がどのような建物か理解をすることで関心や意欲が高まったり、作成されたハザードマップを読み取ることで、学区も浸水の危険な地域であることから防災意識を高めたりすることができた。

また、今回訪れる和歌山県由良町は、生徒にとってなじみの浅い場所である。由良町とはどんな場所なん



作成したハザードマップ



稲むらの火について

漁船体験はライフジャケットを着用して漁船に実際に乗り、沖に出て、真っ白な石灰岩で

事前学習

「修学旅行スローガン」
 カンサイで みんなの絆 カンセイへ

防災意識を高める事前学習として、修学旅行の見学地である「稲むら火の館」濱口梧陵記念館・津波防災教育センター」について調べ学習を行った。実行委員を募り、実行委員が授業後、「稲むら火の館」とは何をテーマとした建物か、「稲むらの火とは」等についてまとめたものを作成したり、宮中学校区の浸水についてハザードマップを作成したりした。生徒たちは、廊下に掲示されたものを熱心に読み、稲むら火の館がどのような建物か理解をすることで関心や意欲が高まったり、作成されたハザードマップを読み取ることで、学区も浸水の危険な地域であることから防災意識を高めたりすることができた。

当日の活動

(1) 1日目
 サバの開きづくり体験とクルージング体験を行った。各クラス、前半・後半に分かれ、2つの体験を交代で行った。

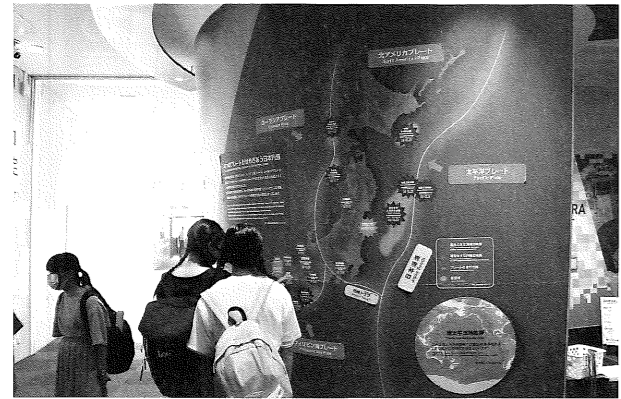
だろう、おすすめのお土産はあるのだろうか、など疑問をもつ生徒も多い。そこで、実行委員が中心となり、和歌山県由良町について調べ学習を行い、手作りのパンフレットを作成し、全員に配付した。生徒たちからは、「海の幸が有名なんだ。美味しそう。早く食べたい。」「醤油が有名なんだね。お土産にいいかも。」などの声が上がリ、修学旅行の日が待ち遠しいようになった。

実施要項

- 旅行先 和歌山県
- 時期 令和2(2020)年9月15日(火)～9月16日(水) 1泊2日
- 実施学年 第3学年3クラス 生徒105名(内特2名)
- 引率者 7名
- 日程概要

【1日目】学校→白崎海洋公園(入村式と昼食)⇒体験活動(クルージングと干物づくり)⇒由良町民宿(夕食・宿泊)
 【2日目】由良町民宿⇒退村式⇒稲むら火の館(震災・津波学習)⇒マリナーシティ(昼食)⇒学校

きた岸壁の間近まで連れて行ってもらうクルージング体験であった。一隻に12人乗船し、船長さんのガイドを聞きながら20〜30分のクルージングを楽しんだ。



熱心にメモをとる生徒

【生徒の感想】
1日目には干物づくりとクルージングがありました。由良町ならではの豊かな自然を自分の肌で感じる事ができました。干物づくりでは新鮮な魚を捕ることのできる場所でない、体験できなかったと思います。しかも1人2匹もやらせていただけで、とても良い体験になりました。また、クルージングでは、海がとても透き通っていて、小さな魚や熱帯魚を見ることができました。大きな不思議な形をした岩があり、今にも崩れきそうなのに、大きな台風にも高波にも打たれ続けても崩れそうで

修学旅行を終えた生徒の感想

◆1日目に自然の美しさを知り、2日目に自然の恐ろしさを学びました。今まで見てきたものでも意識して見ると、美しく見えるようになりました。これからはもっと様々な角度で物事をよく見てみようと思うようになりました。身近な草木の形や葉の動き、すずめの羽の色彩だつて細かく見ると美しさが増します。修学旅行に行ったことで、今後の生活がより一層色鮮やかに見られます。

◆私は今回の和歌山県への修学旅行に行つて、由良町や稲むらの火の館などの歴史を学びました。私は、この旅行で由良町に行くことになるまでどういう場所なのか、どういう歴史があるのかなど由良町という名前すら知りませんでした。でも今回行ってみて、由良町という町は人がとても温かい町だなと思いました。民宿の方々が最初に会ったときからとても温かく接してくださり、とてもうれしかったからです。本来は新型コロナウイルス



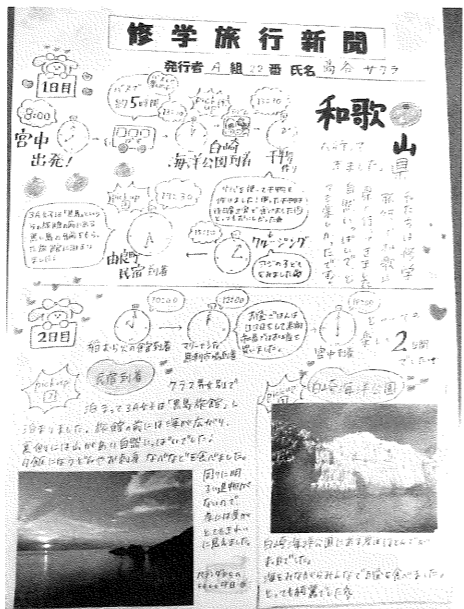
掲示物を見る生徒

れてくださり、とても心が温かくなりました。私はこの修学旅行で学んだことを家族に伝えたり、この修学旅行に関わつてくださった由良町のみなさんや先生方に感謝したりして過ごしていきたいと思いました。

成果(○)と課題(●)

○ 常に感染症対策を意識しながら行動したり、稲むら火の館でも熱心に防災関係のビデオを視聴したり、メモをとったりするなど危機意識を高めることができた。

○ コロナ禍の中、修学旅行の計画や楽しい思い出になるよう様々な計画を立案したことに対して、職員、同じ学年の仲間である修学旅行実行委員、そして温かく迎え入れてく



生徒がまとめた修学旅行新聞

ださつた由良町のみなさんなどに対して感謝の気持ちをもつことができた。

● 今年度については事前学習が思うようにできなかったため、防災に対する意識は高まったが、深めるまでには至らなかった。

おわりに

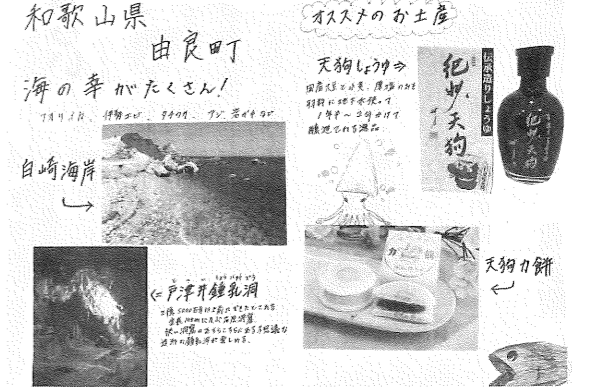
コロナ禍の修学旅行であったため、行き先や日程の変更、消毒法、感染症対策、保護者への説明や理解など検討すべきことは多大にあった。しかし、一つ一つの課題を解決し、生徒や保護者に対して丁寧な説明や理解を求めたため、大きな混乱はなかった。この先、新型コロナウイルス感染症と共存していかねばならないかもしれない。津波などの災害もいつやってくるかわからない。しかし、この修学旅行を機に、常に危機意識をもつた生徒であり続けてほしいと願う。



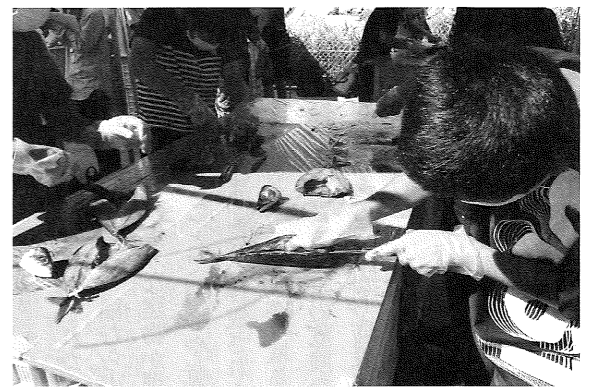
漁船体験の様子

も呼ばれる。濱口梧陵は、嘉永七(1854)年大地震が発生し、紀伊半島帯を大津波が襲った時、稲むら(稲束を積み重ねたもの)に火を放ち、この火を目印に村人を誘導して安全な場所に避難させた人物である。生徒たちは、この濱口梧陵についての掲示物を熱心に読んだり、メモを取ったりするなどの姿が見られた。また、シアターを前後半に分けて視聴した。シアターは3D津波映像であり、津波の恐ろしさを感じることができた。見学を終えた生徒は、濱口梧陵の防災精神や「稲むらの火」の人命尊重の精神をふまえ、来たる津波災害から大切な生命やくらしを守ることを学ぶことができた。

【生徒の感想】
濱口梧陵は200年前の人で、津波が襲ってきたときに、村人の命を最優先で助けよう



由良町のパンフレット



魚をさばく生徒

崩れないので神秘的だなと思いましたが。途中で、トビウオがはねている場面も見ることができ、由良町の美しい自然を感じることができました。どれも言葉では表すことのできないほどの絶景でした。

(2) 2日目

濱口梧陵記念館と

と夢中で自分の大切な田に火をつけ、逃げ遅れた人々を救ったという偉大な人で、僕もこのように自分の大切なものを犠牲にして多くの人を救う人になりたいと思いました。また、助かった人には自分の財産を惜しまずに分け与えて、すごいなと思いました。そのように自分を犠牲にしてみんなを助けるのは自分にはできないので、とても素晴らしいことだと思いました。災害のことで印象に残っているのは「ハザードマップにとられない」ということです。ハザードマップはあくまでも予想であって、実際はどこまで被害がくるかわかりません。このことはこれからも覚えておこうと思いました。とてもためになった時間でした。このことから、非常用バッグなどの準備だけではなく、心構えも必要だと感じました。家族と避難場所の確認や自分一人でも災害から逃げるという気持ちをもって生活していきます。

事後学習

事後の活動では、事前学習で調べたこと、施設見学や体験を通して分かったことを各自が作成する「修学旅行新聞」としてまとめた。生徒のレポートは、稲むら火の館に関する内容が多く、防災に対する危機意識の高まりが見られた。